

# Shimotsuke English Journal (SEJ)

Vol. 66



R3.5.12

## 今月のキーワード

## 「見方・考え方」を働かせるために

令和3年度から全面実施となった学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められています。なかでも「深い学び」を実現するためには、各教科における「見方・考え方」を働かせることがポイントとなります。今回は、外国語科における「見方・考え方」を働かせるための指導について考えてみたいと思います。授業中に先生が発する一言（指示）で、子どもの思考を深めることにつながる場面は意外と多くあるものです。「深い学び」を実現するための視点を再確認し、日々の授業改善に役立ててください。

## 「見方・考え方」を働かせるために

「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせる」こととは(中教審答申より)  
「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築する」こと。  
(※再構築については裏面に記載)

とあります。外国語でのコミュニケーションとは、**相手のある言葉のやり取りであることが前提**で、言葉や文化の背景を踏まえ、**目的や場面や状況に応じて考え工夫して表現することが**求められています。

### ＜見方・考え方を働かせることができない例＞

自分の父親が野球をしていないとしても、  
絵を見て、みんなで声をそろえて英語を言う。

“My father plays baseball.”



機械的に言葉を発する活動だけでは、実際に自分の父親のことをイメージしたり、誰に伝えるのか、相手意識をもったりする必要がありませんね。また、my という単語が、「自分の」ことを指す語だという認識も育ちにくなります。



動詞 play(s) の練習であっても、**本物の情報をもとにしたコミュニケーション**を行いながら意味を伴った練習を行うことが大切です。実際の場面を想定した言語活動を取り入れることで、「見方・考え方」を働かせ、自然な流れで使われる言葉や表現を自分のものとして習得することができるようになります。

例) お互いの家族についてもっとよく知るために (**目的の設定**)、家族がしているスポーツについて、友達と伝え合う (**本物の情報のやり取り**)。

本物の情報をやり取りさせると、未習の単語が出てきたり、文法の間違いが目についたりして、活動させることをためらってしまうことがあるかもしれません。しかし、最初から型(文法)を知識として教えるのではなく、本物の情報をもとに英語を使わせ、「こんなふうに表現すればよかったんだ」と、**子どもたちが主体的に型(文法)を学ぶしかけを作っていく**てください。



## 「再構築する」とは



小学校学習指導要領解説外国語活動編及び外国語編、中学校学習指導要領解説外国語編（H29.7）において、外国語教育の学習過程は次のように示されています。

### ＜学習過程＞

- ① 設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する。
- ② 目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる。
- ③ 目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う。
- ④ 言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う。



例えば、③の場面で

自分の考えをもつ→対話する→再考するというような学習過程となるように、単元展開を工夫することで「**自分の考えを再構築すること**」ができると考えられます。



例：新しく来た ALT の先生によく知ってもらうために自己紹介文を書く活動

自己紹介文を書く→友達からのアドバイスをもらう→修正する（再構築）→別の友達に読んでもらうという流れを設定したとします。

ここでも、ポイントは**相手意識**や**目的意識**（新しく来た ALT の先生によく知ってもらうための内容になっているか）になります。「もっとよく知ってもらうためには、どんなことを伝えようか」「どのように伝えればもっとよく伝わるだろうか」と考えることが、**見方・考え方を働かせること**になります。



ALT の先生はサッカーが好きだと言っていたな。自分の好きな選手のことも伝えてみよう。写真があると分かってもらえるかな。



ALT の先生は日本料理が好きだと言っていたな。下野市に4月に来たばかりだから、市の特産品を知らないかもしれない。まずは、私の好きなかんぴょうを使った料理を紹介してみよう。



相手のことを知り、背景を踏まえることによって、「I like soccer.」→「I like soccer,too.」と発話する英語にも違いが出てくるはずです。

友達や先生からのアドバイスは、「**言語面**（正しく英語を使っているか）」と「**内容面**（目的を達成するための内容か）」の2つの視点からアドバイスできるようにしましょう。子どもたちにも、日頃から意識付けをしておくことをおすすめします。

